

石川県ミニバスケットボール連盟 コミッショナー委員会

1. 組織について

委員長 片桐 弘樹（審判部代表）＜金沢・田上＞

副委員長 石高 博之（競技部代表）＜加賀・野々市＞

中村 吉成（育成部代表）＜能登・田鶴浜＞

委員 ＜能登＞

吉川 知義＜穴水・男子＞ 中西 一八＜石崎・女子＞

道下 忠成＜すず・男子＞ 船本 笑美子＜輪島・女子＞

＜かほく＞

森瀬 幹春＜津幡オーサンズ・男子＞ 岡本 栄太＜津幡スワング・女子＞

＜金沢＞

宿野 孝史＜森山・男子＞ 本間 雅弘＜大徳・女子＞

＜白山・野々市＞

多島 彰人＜千代野・男子＞ 山守 輝明＜美川・女子＞

吉田 優 ＜菅原・女子＞

＜能美・小松・加賀＞

吉本 信洋＜根上・男子＞ 田中 潤 ＜寺井・女子＞

浅野 友之＜中海・男子＞

2. 役割について

◎石川県ミニ連主催の大会上位戦のコミッショナー

○各地区でのマンツーマンディフェンスの推進・指導・アドバイザー

△各地区でのマンツーマンディフェンスコミッショナー講習会の実施

3. コミッショナー設置の目的

ジュニア期において正しいマンツーマンディフェンスを身につけさせることでディフェンススキルを伸ばしていくこと

違反したマンツーマンディフェンスとは…

☆その Def のポジションに意図がない

☆ボール移動・オフense移動があったにも関わらず、ディフェンス移動がない

4. コミッショナーの役割

・正しいマンツーマンディフェンス・チームディフェンスかどうかを確認

・黄旗によるベンチへの注意（指導依頼と捉えてもらえるとよい）

・赤旗によるベンチへの警告（故意的違反・悪質な違反・ゲームへの多大なる影響）

※コミッショナーに分かるようなマンツーマンディフェンスをしなくてはならない。

5. ゲームにおけるコミッショナーとしての仕事の流れ

試合前：当該試合でのコミッショナー同士でカンファレンスを行う。

(記録用紙は本部・あるいはコミッショナールームにて)

カンファレンス内容について

☆役割分担（旗をあげる人、記録をする人、説明に行く人など）

☆各チームの特徴と気をつけるべきプレイについて

☆旗のあげかたについて

試合中：マンツーマンディフェンスがなされているかを確認。

必要に応じて黄旗・赤旗を使用

- ・ベンチ側から説明を求められたときの対応（黄旗）
- ・ゲームクロックが止まっているときに、審判に赤旗であることを示し、当該チームの指導者に説明し、選手に指導をお願いする（赤旗）
- ・起こった違反については記録シートに記入

試合後：・記録シートを記入の上、本部に提出する

- ・悪質なものがあつた場合、地区のコミッショナー委員に報告する。

6. 今後の活動予定

北電カップ（5月）

夏季大会（7月）

加賀地区・能登地区（10月）

県大会（11月）

選抜大会（1月） におけるコミッショナー（主に準々決勝以降）

県ミニ連主催の大会・各地区大会でのコミッショナー講習会

北電カップ（4会場開催となるためみなさんの協力が必要）

地区大会における講習会

加賀地区・能登地区での講習会 あたりでできるところがないか

講習方法

- ・検証ゲームを全員で見た後、討論する
- ・座学でのケースミーティング
- ・モデルゲームを使った実践講習 など

石川県ミニバスケットボール連盟主催大会におけるコミッショナーについて

試合前：当該試合でのコミッショナー同士でカンファレンスを行う。

カンファレンス内容について

☆役割分担（旗をあげる人、記録をする人、説明に行く人など）

☆各チームの特徴と気をつけるべきプレイについて

☆旗のあげかたについて

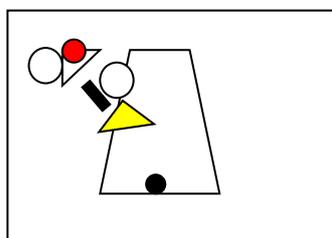
1. 2016年10月に規定されたマンツーマンディフェンスの基準規則をもとに行う。
2. マンツーマンの違反があった場合、1回目は黄色の旗で示す。
3. 同じ選手が同じようなケースで違反した場合は赤色で示し、ゲームクロックがとまっているときに、当該コーチに説明する。それでもなお、同じ選手が同じ違反をした場合は赤色を示し、コーチにテクニカルファウルを宣する。(2ショット)
4. 同じ選手がピリオドをまたがって違反した場合は、警告のための赤旗を示す。
5. ある選手が、黄色の旗で示された後、違う違反を犯した場合、再度黄色で示す。
6. ある違反を異なる選手がした場合は、黄色で示す。
7. 黄色の旗を示す場合は、どちらのチームが違反したかがわかるように、チームベンチを指す。
8. ゲーム終盤で、ベンチの指示によるゾーンプレスは一回目でも赤旗をあげる。
9. 黄色の旗について…「注意」と捉えるのではなく、よりよいディフェンスへとつなげる「メッセージ」と捉えてもらえればと思います。気になることがあれば、あげてもらい、よいディフェンスへとつなげていくことが大切です。(赤旗はゲームを止めて指導するため、たくさんあげすぎると、ゲームの面白さを損なうことになる) ディフェンス側への指導も大切ですが、オフェンス側にも必要があれば、コミッショナーが声をかけてもらってもいいと思います。コミッショナーを通じて、よいオフェンス、よいディフェンスができるバスケットボールプレイヤーを育てていきましょう。よろしくお願ひします。

※コミッショナーの意図は、正しいマンツーマンディフェンスによる選手育成によるものである。技術不足、体力不足、それに加えてゲームへの影響を考えなくてはならない。

試合後：記録シート記入の上、所定の場所（本部席など）に提出すること。

北信越大会であった

スクリーンディフェンスについて



○：OFF △：DEF ●：ゴール ○：ボール

※ボールマンスクリーンにおける△（黄色）のポジションは場所を守っている解釈になる。規定にはないが、その考え方になるので、黄色の旗で伝えたほうがよい。(警告とはならない)